

「水は命の源」

沖縄県 宮古島市立佐良浜中学校

二年 与那城 元 樹

水。それは僕達の生活に欠かすことができないもの。もし水がなくなってしまうたら、この地球上の全ての生き物は死んでしまうだろう。そんな貴重な水を、僕は大切にしているのだろうか。

二〇〇三年十月。僕達の島を襲った台風十四号の猛威。つよい雨と風が吹き荒れ、電柱も倒れ、電気や水も使えなくなるといふ事態が発生しました。普段何事もなく暮らしていた僕は、この時ほど水のありがたさを感じたことはありません。水がなければ、ご飯も炊けないし、お風呂にも入れません。もちろんのどの渇きを潤すこともできません。

しかし祖父の家では、幸いなことに日頃からタンクに水を溜めていました。家族で少しの水を分け合い、ご飯を炊くことができ、体を洗うこともできました。僕は、日頃から祖父が雨水を溜めていたという事に驚き、同時に水を大切にしている祖父の姿に感心しました。僕は水を溜めるどころか、出しっぱなしにしていたことを恥ずかしく思いました。

断水が始まって日が経つにつれ、みんなのストレスや疲労が増していくのが目に見えるようでした。やつと家の蛇口から水が出たときのうれしさは今でも忘れられません。宮古諸島を襲った台風十四号。それはとても苦しい体験でしたが、水の大切さを身をもって知る、大切な勉強の機会でもありました。

また、台風の被害だけではなく、夏の降水量が少ない時期になると、沖縄の各地では、「渇水」に悩まされることもあります。渇水による干ばつで、まず被害を受けるのは農作物です。水が少ないと、農家の人々の努力もむなしく、農作物が不作になってしまいます。また、牛や馬も水がないと生きていけません。このように身近なところを振り返ってみるだけでも、水は全てのものと同様関わっているのだと感じます。古くから人々の生活に水は欠かせないものなのです。海の生物は

もちろんのこと、畑で育つ作物も、水の恩恵なしには僕達の口には届きません。こう考えてみると、地球上全ての源は「水」なのだと思えます。そして、必要不可欠なものです。

僕の住んでいる伊良部島・佐良浜にはいくつかの「ガー」とよばれる井戸があります。その中でもサバウツガーという井戸は、佐良浜の人々の暮らしを支えていた井戸です。昔は、その井戸から一日何度も水を汲みに行っていたそうです。水の入った重い入れ物を持って、井戸に続く長い階段を上り下りしていたと思うと、信じられません。水汲みの仕事は、子どもたちの毎日の仕事だったそうです。こんな体験があるからこそ、子どもから大人まで、水がどんなに大切な、生活に関わっているかということ強く感じていたのではないのでしょうか。今、蛇口をひねるだけで水が出てくる自分の生活の便利さの中で、水がどんなに大切かを忘れてはいないでしょうか。と思います。「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉があります。いつやってくるかわからない災害に備え、日頃の生活から水について考えなければならぬと思います。今ある水に恵まれた生活に感謝し、限られた資源を有効に使うべきだと思います。僕は、台風や干ばつの被害で「水の大切さ」を実感しました。だからこそ、水と共に生活をしているということを日々考え、水によって生かされることを忘れてはいけないと思うのです。

水は地球の全ての命の源。その水に感謝をし、一人ひとりが意識を持って水の大切さを考えなければならぬと思います。全ての人にとって、水は本当に大切な宝物です。水のありがたさを忘れずに、水を守るために小さなことでも実行していきたいです。その小さなこと一つひとつが、大きな力となり、水を守り、人を守っていくことにつながっていくと信じています。

「意識改革」

ポーランド ワルシャワ日本人学校
二年 石上 奈穂

私は水はあたり前にあるものだと思っていました。なぜなら、蛇口をひねるといつもきれいな水が出てくるからです。

暑い日、疲れたとき、喉がかわいたときなどにふつうに飲んでいた水。水道水で車を洗ったり、プールやお風呂にも使っていました。私はこのとき自分が水のむだ使いをしているとは全く思っていませんでした。でも、日本以外の国に住むという体験をする中で、日本では気付くことのできなかったことに気付くことができました。水道水をあまり飲んではいけないので、飲んだり、料理をする時など買った水を使いました。初めのうちは、一日五リットルくらいの水を使っていました。ということは、一週間約三十五リットル一カ月約一五〇リットルもの水を使うということなので、水がもつたいないと思うようになりました。そして、もっと大切に使わないといけないと思うようになり、水道水も使えるように工夫するようになりました。例えば、お米をとぐときに初めは水道水でとぎ、最後に買った水でとぐようにしました。また、水道水を浄水機にかけて熱を通す料理、お茶やみそ汁などに使うようにしました。

レストランなどに行ったときは、日本ではタダで水が出て来ていたのに、ポーランドでは水も頼まないと出てこなくなりました。日本ではたくさん飲んでいた水も、頼まないと出て来ないから、少しづつ大切に飲むようになりました。それに、ジュースと水の値段がほとんど同じでした。

水は貴重だということで考えてみると、私は今まで欲張っていたと思います。水を飲むときに、「水道水の水よりも、買った水のほうがいい。」「おいしいから。」と、言って水を買ってもらっていました。

車を洗うときは、まず水を流し、洗剤をつける。このときにも水を使います。そして、また流します。洗剤を落とさないといけないため、初めのときより水を

たくさん使わないといけないと思います。車一台を洗うのに水はいくら使うのでしょうか。車が大きくなれば大きくなるほどたくさん水を使うということになると思いました。

私は外国に来て、日本にいたときには気付けなかったことに気付いたのでとても良かったと思います。水を大切に使うように意識したり、工夫したりするようになりました。でも、あと何年かしたら日本に帰ります。そのときに、水を大切に使うと意識しなくなったらだめです。だから、日本でも水を使う工夫を考えていきたいと思っています。

一つ目は、さっきでてきた車です。どうしても水がたくさん必要になるからこそ、工夫しないといけないと思います。初めに、スポンジに水をつけ洗剤を少しつけます。そしてこすった後に、水で洗い流します。すると、洗剤も少ないから、流す量も少なくなるし、環境にも良くなります。二つは環境に良いことをしたことにあります。

二つ目に、シャワー、手を洗うときなど、蛇口をひねり、水を出すことがあると思います。手を洗うときは、水を流しっぱなしにして、石けんで洗っている人がいると思います。でもそれでは流しっぱなしにしている水がもつたいないと思います。だから、一回一回水を止めたほうがいいと思いました。

水を大切にする工夫、意識は人それぞれだと思います。でも必ずできることがあると思います。私は外国に住むという体験をするなかで、水の大切さを改めて知ることができました。でも、大切さを知っただけでは、改善されません。意識改革をして、行動をしていかないといいけないと思います。

—— 第 28 回「全日本中学生水の作文コンクール」概要 ——

第 30 回「水の週間」行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

- 1 応募要領
- ① テーマ……「水について考える」（題名は自由）
 - ② 対象……全国の中学生及び外国に居住する日本人中学生
 - ③ 原稿枚数……400 字詰原稿用紙 4 枚以内
 - ④ あて先……中学校の所在都道府県水資源担当部局、ただし、外国に居住する者
にあつては国土交通省土地・水資源局水資源部
 - ⑤ 募集期間……平成 18 年 4 月 1 日（土）～平成 18 年 5 月 11 日（木）到着分有効、た
だし、外国に居住する者にあつては、平成 18 年 6 月 1 日（木）まで
に国土交通省土地・水資源局水資源部あて到着分有効とします。
 - ⑥ 著作権等……○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作文の著作権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

2 応募状況

応 学 校	募 数 校	応 総 編	募 数 編	学 年 別		
				1 年 編	2 年 編	3 年 編
380		16,095	5,189	5,840	5,066	

- 3 審査 応募作文 16,095 編のうち、都道府県段階等の地方審査を経た 137 編を対象に、平成 18 年 7 月 6 日開催された中央審査会において、最優秀賞 1 編、優秀賞 4 編及び入選 26 編あわせて 31 編の入賞作文を決定

4 表彰

(1) 賞および賞品

賞		賞 品
最優秀賞	国 土 交 通 大 臣 賞	賞状、盾、 デジタルカメラ
優 秀 賞	全日本中学校長会会長賞	賞状、盾、電子辞書
優 秀 賞	水の週間実行委員会会長賞	
優 秀 賞	独立行政法人水資源機構理事長賞	
優 秀 賞	国土交通省水資源部長賞	
入 選		賞状、電子辞書
中央審査参加賞		記念メダル

- (2) 表彰式 最優秀賞及び優秀賞の受賞者を平成 18 年 7 月 28 日（金）、東京において表彰

5 **中央審査委員** (50音順、敬称略)

赤川 正和 (社)日本水道協会専務理事)
須磨佳津江 (キャスター)
長崎 宏子 (スポーツコンサルタント)
仁井 正夫 (国土交通省土地・水資源局水資源部長)
福田 昌史 (独立行政法人水資源機構理事)
宗像 昭男 (全日本中学校長会教育研究部長)

6 **主催者等** 主催：国土交通省、都道府県

後援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、
独立行政法人水資源機構

第 28 回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査優秀者名簿

都道府県名	氏 名	氏 名	氏 名
北海道	熊谷 早紀	高田 拓典	早川 千晴
青森県	盛 剛	○寺口 徳一	新松 成美
岩手県	上野澤 智美	立石 直子	松林 咲子
宮城県	鈴木 美穂	佐々木 瑞穂	阿部 明日香
秋田県	高橋 志成	工藤 綾華	小倉 朱理
山形県	○高橋 春香	斉藤 有菜	清野 あかり
福島県	斉藤 千紘	斎藤 舞子	庄野 有未
茨城県	江口 未紗紀	會澤 涼子	◎合志 裕紹
栃木県	○加藤 広佳	林田 翔	高野 真衣
群馬県	斎藤 彩	長澤 侑季	○秋葉 光恵
埼玉県	北村 萌	神塚 麻衣	○木下 沙耶
千葉県	○村田 優人	河野 高明	新藤 一葉
東京都	○中村 華子	目黒 正子	四條 友起子
神奈川県	○森川 愛美	木下 智絵	●山本 ひかり
新潟県	山本 結香	吉原 香奈恵	菊池 舞
富山県	大野 雅夫	表 千尋	室谷 緑
石川県	龍澤 徳樹	出島 仁美	元橋 朋子
福井県	中野 貴友	加藤 明久	中口 真衣
山梨県	○鶴田 萌	土橋 梓	伊東 秀達
長野県	○溝口 うらら	矢澤 穂奈美	荻山 めぐみ
岐阜県	平井 友子	越路 崇玄	古田 将基
静岡県	◎岸 花帆里	藤田 恵	佐藤 小巻
愛知県	菱沼 眞子	畑中 美穂	高橋 香帆
三重県	○北川 幸枝	南端 理沙	渡邊 空
滋賀県	○高橋 涉	北野 亜実	池田 裕介
京都府	木村 匡一	嶋田 芽衣	道本 和代
大阪府	○上田 拓舞	栗田 寧々	植村 有沙
兵庫県	廣瀬 亜依	稲井 瑞穂	エスタリー・ケイト
奈良県	上脇 香保	福谷 堯子	脇 葉月
和歌山県	○栗山 航一	中道 依里	前島 恵吾
鳥取県			
島根県	◎山口 明紀	○岡先 綾子	田中 香苗
岡山県	○赤木 克啓	杉 秋穂	山崎 晴菜
広島県	松永 尚也	世良 正一	東 真由子
山口県	林 輝洋	西本 奈津美	○藤井 絢子
徳島県	○香川 千夏	岡田 彩香	村上 睦実
香川県	○苧坂 美里	三好 春奈	久原 由依
愛媛県	○青木 さやか	坂田 絵理子	杉 晴奈
高知県	沖 夏歩	岡本 茉奈実	岡林 悠奈
福岡県	川上 紗稀	手島 祥子	斉藤 卓人
佐賀県	米倉 佑夏	橋川 奈生	○吉岡 慎平
長崎県	船原 一穂		
熊本県	○山畑 まい	○須恵 翔吾	有田 真希
大分県	小林 真幸	岩田 華奈	◎榎本 弥奈
宮崎県	甲斐 潤奈	○日高 美耶子	肥後 亜里紗
鹿児島県	今別府 大悟	西 美耶子	門倉 吏歩
沖縄県	○与那城 元樹	本村 知夏	大城 侑子
海外	○石上 奈穂		

(注) 氏名の前の印は、中央審査会における入賞者で、●は最優秀賞、◎は優秀賞、○は入選

第 28 回「全日本中学生水の作文コンクール」応募状況

都道府県名	応募学校数	応募総数 (編)	学 年 別 (人)		
			1 年	2 年	3 年
北海道	12	105	43	48	14
青森	7	55	25	2	28
岩手	9	115	10	23	82
宮城	2	79	0	0	79
秋田	3	104	99	2	3
山形	2	9	1	0	8
福島	12	105	43	48	14
茨城	15	459	89	249	121
栃木	7	680	0	337	343
群馬	5	688	135	265	288
埼玉	11	565	55	260	250
千葉	15	697	387	165	145
東京都	17	642	120	415	107
神奈川県	20	790	354	261	175
新潟	11	123	43	35	45
富山	7	320	165	6	149
石川	3	200	0	131	69
福井	4	39	2	12	25
山梨	5	249	123	125	1
長野	5	157	0	73	84
岐阜	5	75	67	6	2
静岡	7	218	94	50	74
愛知	13	385	49	188	148
三重	4	224	65	106	53
滋賀	7	946	416	266	264
京都	4	289	68	179	42
大阪	8	484	95	209	180
兵庫	7	305	19	251	35
奈良	4	215	147	49	19
和歌山	10	730	308	181	241
鳥取	0	0	0	0	0
島根	7	50	2	3	45
岡山	3	50	3	19	28
広島	6	181	1	142	38
山口	6	18	1	12	5
徳島	5	16	0	0	16
香川	13	104	97	4	3
愛媛	3	117	0	116	1
高知	4	9	1	1	7
福岡	8	510	113	193	204
佐賀	11	236	56	79	101
長崎	2	59	0	1	58
熊本	42	4,134	1,635	1,247	1,252
大分	4	140	7	6	127
宮崎	6	230	143	42	45
鹿児島	13	136	65	29	42
沖縄	5	47	40	1	6
海外	1	6	3	3	0
合計	380	16,095	5,189	5,840	5,066

(注) 海外は、ポーランド

「全日本中学生水の作文コンクール」応募状況の推移

	応募 学校数	応募 総数	性別		学年別		
			男	女	1年	2年	3年
第1回 (昭和54年度)	634	4,875	(編) 1,878 (39)	(編) 2,997 (61)	(編) 1,513 (31)	(編) 1,710 (35)	(編) 1,652 (34)
第2回 (昭和55年度)	486	3,930	1,446 (37)	2,484 (63)	1,245 (32)	1,462 (37)	1,223 (31)
第3回 (昭和56年度)	487	5,569	2,159 (39)	3,410 (61)	2,004 (36)	1,974 (35)	1,591 (29)
第4回 (昭和57年度)	512	5,111	1,878 (37)	3,233 (63)	1,923 (38)	1,848 (36)	1,340 (26)
第5回 (昭和58年度)	495	4,192	1,435 (34)	2,757 (66)	1,925 (46)	1,214 (29)	1,053 (25)
第6回 (昭和59年度)	531	7,013	2,905 (41)	4,108 (59)	2,923 (42)	2,115 (30)	1,975 (28)
第7回 (昭和60年度)	572	9,703	3,676 (38)	6,027 (62)	3,794 (39)	3,647 (38)	2,262 (23)
第8回 (昭和61年度)	507	7,431	3,080 (41)	4,351 (59)	2,809 (38)	2,680 (36)	1,942 (26)
第9回 (昭和62年度)	513	9,253	3,789 (41)	5,464 (59)	4,086 (44)	2,935 (32)	2,232 (24)
第10回 (昭和63年度)	498	10,119	4,233 (42)	5,886 (58)	4,212 (42)	3,501 (34)	2,406 (24)
第11回 (平成元年度)	641	13,192	5,601 (42)	7,591 (58)	5,345 (41)	4,392 (33)	3,455 (26)
第12回 (平成2年度)	551	11,782	5,320 (45)	6,462 (55)	5,404 (46)	3,549 (30)	2,829 (24)
第13回 (平成3年度)	623	12,056	4,834 (40)	7,222 (60)	5,174 (43)	3,821 (32)	3,061 (25)
第14回 (平成4年度)	552	12,718	5,332 (42)	7,386 (58)	4,898 (38)	4,533 (36)	3,287 (26)
第15回 (平成5年度)	473	13,680	5,340 (39)	8,340 (61)	4,658 (34)	5,024 (37)	3,998 (29)
第16回 (平成6年度)	557	13,647	5,591 (41)	8,056 (59)	5,247 (38)	4,577 (34)	3,823 (28)
第17回 (平成7年度)	558	15,918	6,617 (42)	9,301 (58)	5,940 (38)	5,388 (34)	4,590 (28)
第18回 (平成8年度)	491	15,479	6,595 (43)	8,884 (57)	5,403 (35)	5,606 (36)	4,470 (29)
第19回 (平成9年度)	456	13,688	5,731 (42)	7,957 (58)	5,088 (37)	4,792 (35)	3,808 (28)
第20回 (平成10年度)	493	13,764	5,935 (43)	7,829 (57)	4,842 (35)	4,609 (34)	4,313 (31)
第21回 (平成11年度)	429	11,903	4,971 (42)	6,932 (58)	4,324 (36)	4,059 (34)	3,520 (30)
第22回 (平成12年度)	413	14,283	6,288 (44)	7,995 (56)	4,737 (33)	4,968 (35)	4,578 (32)
第23回 (平成13年度)	362	11,841	5,131 (43)	6,710 (57)	3,862 (33)	3,844 (32)	4,135 (35)
第24回 (平成14年度)	413	13,442	6,159 (46)	7,283 (54)	4,878 (36)	4,691 (35)	3,873 (29)
第25回 (平成15年度)	453	13,385	5,980 (45)	7,405 (55)	4,100 (31)	4,618 (34)	4,667 (35)
第26回 (平成16年度)	452	16,488			5,595 (34)	5,655 (34)	5,238 (32)
第27回 (平成17年度)	439	15,726			4,489 (29)	6,464 (41)	4,773 (30)
第28回 (平成18年度)	380	16,095			5,189 (32)	5,840 (36)	5,066 (32)
合計	13,971	316,283			115,607 (36)	109,516 (35)	91,160 (29)

(注)・第10回から海外在住中学生の作文募集を始める。
 ・第26回から作文応募時の性別表記を不要としている。
 (教育現場における男女共同参画社会づくりに向けた取り組みに配慮)

第28回「全日本中学生水の作文コンクール」表彰式

全国からの応募作文16,095編の中から選ばれた最優秀賞1編と優秀賞4編の受賞者の表彰式は、平成18年7月28日(金)に第30回「水の週間」記念式典(科学技術館)で実施された。



最優秀賞作文を発表する山本ひかりさん



喜びの受賞者たち

(中央審査委員)



赤川正和
審査委員



須磨佳津江
審査委員



長崎宏子
審査委員



仁井正夫
審査委員



福田昌史
審査委員



宗像昭男
審査委員



国土交通省

国土交通省土地・水資源局水資源部

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2

電話 (03) 5253-8111 (代表)

ホームページ <http://www.mlit.go.jp>